

保存会だより

若年層穂高人形制作講座報告

発行
穂高人形・
御船祭保存会

「魂が入ったみたい」と感動

恒例となつてゐる小学生を対象とした穂高人形制作講座が、等々力町区・穂高区・穂高町区でそれぞれ開催され子供たちと共に親子の充実した時間になつてゐる。

牛流教室が行つたのは甲冑の着付けだ。まず用意した人形に甲冑をつけさせて着付けの方法を教わり、子供たちが付けてみるというもの。「蝶結びがうまく結べた、簡単に解けるんだ。」と子供たちから歓声が上がつた。保護者たちは、「昔はいろんな物を付けていたんですね。甲冑ばかりを作つていた去年と違って人形に触れられたから子供たちも興味あるみたい」と喜んでゐた。教室代表の竹内敏夫さんは「毎年のお祭りで御船に飾られる人形がこういう作りをしていると感じてくれれば有り難い」と話してゐた。

又保尊教室が開く講座は作った物を持ち帰り飾れるようにその日のうちに完成できるように準備品に手間をかけた。幟旗の制作に予め旗用色布と竿、六文銭などの家紋ブラ製型板を用い型板をはさみで切り抜き、アイロンで布へ接着、竿へは粘着テープで貼り付け完成。子供たちからは「粘着テープの貼り付けが難しい」と言い熱心に取り組んでゐた。二十三人の子供たちが低学年でも



参加し一人に一本ずつの幟を作り短時間で完成させた。保護者達は「色がカラフルで良かった」との好評もあり指導した保尊教室の山田孝さんは準備した労に満足してゐた。

夏休みの一日を利用して講座を行つてゐる、穂高町区小平教室の人形制作では工程が多い頭作りで去年の講座で頭の形を貼りつけた素材を使って完成させる作業が行われた。後頭部と目の部分にカッターで穴を開け、眼球のガラス玉を付け頭全体に新聞紙を詰めこみ蓋をし、粘土で顔を作り表情ある物に仕上げる作業をした。子供同士互いの顔を見ながら肉付けをした。低学年が難しいところは、親が手伝つてやり飽きないように作つてゐた。「父さんの怒つた顔作れ」と言われた子供は「父さん怒つたことない」の返事に笑い最後の目を書き入れると「魂が入つたみたいだ」と感動してゐた。

夏休みの一日親子で熱中できる時間となり思い出に残せると保護者達は喜んでゐた。

それぞれの講座に参加していた会長からは、これからも人形作りに興味を持って参加してほしい若い人たちに引き継いでいってほしいと希望を語つてゐた。



三か所で行われた若年層講座の日程場所等は左記の通り

担当	日時	場所	参加人数
牛流教室	平27・12・19	等々力町区公民館	二十人
保尊教室	平28・1・9	穂高区田中公民館	二十三人
小平教室	平28・8・20	穂高町区公民館	十五人



第十三回研修旅行

大河ドラマ真田丸に因み岩櫃城跡から上田城を訪ねて

人形飾り物の知識を広める目的で、名所旧跡を訪ねる研修旅行が、梅雨明けが報じられようとする七月二十日、二十七人の参加者で行われた。今回は、大河ドラマ「真田丸」で大変な賑わいとなっている群馬県吾妻町岩櫃城から上田城へ真田家縁の地を訪れる旅である。

朝六時半に出発したバスは長野道より上信越道小諸へ向かう中参加者の中山隆さんよりドラマで放送されている内容にもとづいて、岩櫃城や真田一族を色々な視点からわかりやすく説明された。続いて平林会長からは、これからの見学先である山城の説明として「壕切」が要所に作られている点に「歴史がかいま見られる、戦の様子を推測してほしい」と加えられた。

一行が先ず訪れた場所は、この旅行とは関係ないが有名な「八ッ場ダム」であった。利根川水系の災害防止の目的ではあったが、住民たちが長い間反対と買収・立ち退きの経緯を聞きつつ未だ未完成の景色を眺めていた。

続いてこの旅のメインである岩櫃城跡登山である。岩山を西裏に北側は急峻な崖、東には遙か沼田城を見下ろし、南側には、「帯くるわ、たて壕、横壕」からなる「空壕」を施し、普段は下の村里に暮らし戦が始まるとこの山城に立てこもって戦った。との説明に「こんなところ昇って来られない。雨が降ったら大変だ」と息を切らし城跡地へつくと木陰の風に涼みつつ往時を偲び、昼食を長野県に入って済ませた後真田家の菩提寺である長谷寺を訪ねる事となる。ここは真田家の寺との事で檀家はなく、折からのブームで参詣者も多く、硬貨六つを石灯籠など至る所に並べてある景色が印象的であった。

真田氏歴史館では真田氏発祥の郷としてのレ



プリカが展示され、甲冑古文書や大河ドラマで使用された手裏剣などが展示され、中でも立派な陣羽織に関心を集めていた。

この旅の締めくくりに訪れた上田城では、昔の川壕を回り込んで入る上田城公園内には大河ドラマ館としてドラマの俳優や歴史説明などジオラマをもつて展示、建物の瓦や柱など舞台セットの特殊製作技法が、飾り物制作に「大変参考になった」と感心。最後に城内を見学、大小様々な石が組み込まれている石垣に「よく作ったものだ」と見入っていた。

今回の旅行は群馬県から長野県へ帰りながら真田氏縁の地を訪ね歩く旅であったが、会長始め参加者が熟知したガイド役を勤めていただいでくれたお陰で大河ドラマの歴史や戦いがより一層鮮明になったと思える。折からのバス運賃値上げと近隣地域の歴史探訪による参加者減であったが好天の中、戦国史実を自身の足で読み取る誠に充実した旅であったと感じた。

人形飾り物に節約を学んだ児童たち

子供たちへ穂高人形の伝統文化意識付けに穂高南小学校で毎年行っている人形飾り物展示で、去る三月二十八日穂高人形制作研修保尊教室の六人の後継者によって「松下禅尼の教え質素儉約」の場が飾られ、家来に命令はせず自分で障子を切り貼りして節約することを教えた話を人形飾り物として展示した。学校では、新学期間近のこの日先生方は「ためになる話を人形で示していただきました」と感謝していた。後日子供たちからは、「昔は、こんなエコをし



ていたんだ。私もエゴしたい。「こんな時から紙を節約したからいまは紙が豊富にあるんだ。」紙を大切にしようと思った」と質素儉約の意味を学ぶと共に「本物みたいで工夫されている。髪の毛とかきちんとしてすごい。おばあさんのしわが本物みたい。すごい迫力で昔をよく現している。」と人形飾り物に対する感想が聞かれた。

人形の迫力に感動

去る十一月一日より十三日まで神社社務所西において穂高人形三場面が展示された。保存会の後継者である小平・牛流・保尊の三教室が人形制作研修の場として平成十五年穂高会館における穂高文化祭の期間中展示として始められたもので、二十一年からは現在の場所となり期間を二週間に延長展示建て屋も毎年改良を重ね昨年からは業者へ依頼、屋根部分だけを各教室で張り、今年には更にその作業がし易いように中段を作ってもらい、屋根完成後ははずす行程をとってもらった。又今年には安曇野市制十周年記念の市民提案事業（継続事業）としての補助を受けての開催となり後継者達は腕をふるっての制作となった。

一日開会式では会長より「ここでの展示は後継者の育成に成果を生んでいる。今年は御遷宮の人形展示もあり絶好の機会です。大勢の方に見ていただきたい。」と述べ、神社からは「伝統を多くの方に知ってもらえる、各教室毎に人形師の伝統を受け継いでいる。」と褒め称えられた。

場面説明では「坂上田村麿が八面大王を退治する」場で小平教室藤原国広さんより「この地に因んだ物語でどの場面にするか迷った。大王の場を高くしようとしたがうまくいかなかった」と苦勞を述べた。

「十ヶ堰開削」の場では、保尊教室山田孝さんは地元のをと考え場面物語の説明をして「人



形がたくさんできっちりだと思いが、本当にこういう風になんかでやった事、その苦勞をわかってもらおうように飾った。」と情熱をこめて語った。「今川義元の最期」の場では牛流教室竹内敏夫さんは、「牛流さん亡き後、流れを引き継いでこの形で表現してみました。皆さんからの講評を頂きたい。」と意欲を述べた。このあと三教室へは、御遷宮飾り物で「高く迫力ある昔のような飾り物表現の展示」に対する報奨金の授与が行われ終了となった。

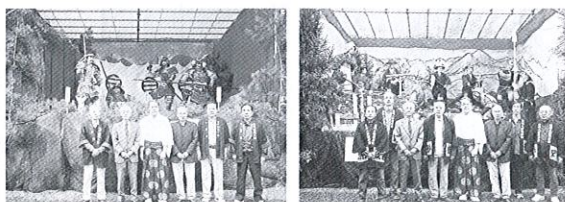
展示期間中はそば祭りなどの市のイベントと重なり多くの人が鑑賞し、感想ノートを置いておいたところ「昔は大変だという事が伝わってきました。表情が素晴らしく感動しました。」という絶賛の声が書かれていた

御遷宮穂高人形飾り物展後も 伝統文化伝える駅飾り物

穂高人形研修小平教室が毎年三月中旬に行うJR穂高駅構内の人形飾り物が今年も飾り替えられた。

テーマは「真田幸村奮戦の場」教室の藤原国広さんは「今年は大河ドラマで真田丸をやるので多くの人に関心を持ってもらえる」と張り切って作った。

御遷宮後の夏、駅改札では下車後の一時大勢の客が通過待ちの間人形のままで立ち止まり写真に納めていた。「真田幸村は安曇野と何か関係あるの？」と尋ね、保存会人形教室の飾り物、大河ドラマを題材にした事の説明を読み「へえ、これから穂高神社へ行ってみよ」と意気込んでいた。



受け継がれた伝統文化

式年遷宮奉祝穂高人形大飾り物展

参観者より歓声

穂高神社の最も大きな祭典である式年遷宮と例大祭に奉納される穂高人形の制作・飾り物展示を行う後継者育成のため十六年前に保存会が発足、これまでに人形作りの研修が行われ、今年五月一日から十五日までの式年遷宮奉祝展示には多くの人形など飾り物が後継者によって境内南神苑を中心に行われた。飾り物の場面題目は二年前に「私が見たい飾り物場面」として公募した中から選定した二場面と、保存会・人形師・神社で決定した三場面計五場面を、人形制作研修の小平・牛流・保尊の三教室と志を同じくする「一真会・七星会・健壯団・睦友社」の七団体が展示を行った。会期前内覧会では、保尊教室による大阪城で外堀に作られた真田丸での戦場面で「とくに臨場感を出すのに苦心、大阪城を忠実に表現し、歴史の重大場面の再現をご覧下さい」と紹介。又睦友社の藤田社長は天孫降臨の場で「広大な草原で繰り広げられるやりとりを立体感を出して表現、動きの少ない場所では表情の豊かさに力を入れた」と説明。

加藤清正虎退治の場では牛流教室・七星会・健壯団の畠田重穂さんは師匠の故牛流弘次さんの心を汲んで飾りを作った。四十五年程前に北海道で飾り物をやった時の虎を飾ってみました。実際の歴史として文禄の役を飾るのに建設用足場を用いて山岳戦を表現したと説明。

小平教室・一真会の藤原国広さんは「楠公父子櫻井の別れ」の場面で「大楠公の歌」を流し歴史を感じてもらおうこととした」と紹介、上田城合戦場面では「小平貞男先生より自由な作風を進められたが、未だその域に達していない、これからも師匠に負け



ないよう精進したい」と話していた。期間中は、天候にも恵まれ大勢の出入があり表情豊かな人形飾りに「立派な飾り物だ。素晴らしい。すごい迫力で感動した。」との歓声が聞かれた。

尚、展示された人形等の数は左記の通り

場面名	制作者	人形数	その他
加藤清正虎退治	牛流教室、七星会、健壯団	13	馬 2 虎 3
文禄の役	保尊教室、睦友社	10	馬 1
真田丸		15	大阪城
天孫降臨	小平教室、一真会	16	猿田彦命の大人形
櫻井の別れ		7	馬 1
上田城の戦い		17	馬 5

また、この期間中神社北神苑において長野県の「元氣作り支援金」による「安曇野オフネ祭り」が行われ、市内五地区よりお祭り御船五艘を展示、その一つに穂高区の子供船が出され、場面飾りに「信長初めて黒人を見て驚く」場が展示された。

着物御奇進御礼

人形や御船の飾り物に必要な着物類の寄付を多くの方々にお寄せいただきより御礼申し上げます。

本年度は、着物、帯、反物、蚊帳の他、法被、紫紋幕国旗を含め全部で五十六点に及びました。誠に有り難うございます。お寄せいただきました品は、人形飾り物に有効に使用させていただきます。尚、寄付者名は左記の通り。(順不同)

- ▲東御市 柳沢郁史様 ▲安曇野市 吉野神社様 健壯団様 宮下祥一様 島田茂子様 両角幸様 中村由美様 山田憲吾様 小山すえこ様 相沢様 匿名様

着物類についての御寄付は引き続き受け付けておりますので、よろしくお願い申し上げます